様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	沖縄工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	機械システム工学科	夜・通信		7	３	１０	7	
	情報通信システム工学科	夜・通信			０	7	7	
	メディア情報工学科	夜・通信			０	7	7	
	生物資源工学科	夜・通信			０	7	7	
	創造システム工学専攻 機械システム工学コース	夜・通信		8	０	8	7	
	創造システム工学専攻 電子通信システム工学コース	夜・通信			０	8	7	
	創造システム工学専攻 情報工学コース	夜・通信			０	8	7	
	創造システム工学専攻 生物資源工学コース	夜・通信			０	8	7	
（備考）								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

Web 上にて公表 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=51&lang=ja

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	沖縄工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/release/independence#link01

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
常勤	国立高等専門学校　理事（2024 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）	2026 年 4 月 1 日～2029 年 3 月 31 日	理事長
常勤	文部科学省官房参事官（命）文部科学戦略官	2026 年 4 月 1 日～2026 年 10 月 15 日	総務
非常勤	東京大学教授	2026 年 4 月 1 日～2028 年 3 月 31 日	ダイバーシティ
常勤	東北大学工学研究科長	2026 年 4 月 1 日～2028 年 3 月 31 日	研究・産学連携 茨城工業高等専門学校校長兼務
（備考） 理事長は 2024 年 3 月 31 日まで九州大学大学院総合理工学府長・研究院長			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	沖縄工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 授業計画書（シラバス）は、授業担当者が前年度末までに作成または内容更新を行い、各授業の到達目標を明記するとともに、ルーブリックによる各項目の到達レベルを詳細に記入している。併せて、授業内容や授業の進め方を記載し、他の科目との関連等を記載することで学生が授業概要を事前に把握し、科目間の関連を認識できるようにしている。 また、授業計画については、週ごとの授業内容・方法を授業計画に記載するとともに、週ごとの到達目標を明記することで学生の自学自習を促し、学生自身による到達度の確認を実施できるようにしており、評価の割合についても、試験やレポート等の項目ごとに示している。 作成した授業計画書（シラバス）は Web 上で公表し、学生に周知している。

授業計画書の公表方法	Web 上にて公表 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=51

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

各授業の単位は、授業における定期試験、中間試験、小テスト、レポート等の成績を合わせて算出された学年末の成績である評価点が 100 点満点で 60 点以上である場合にその単位の修得が認定される。
授業における評価点の算出方法は、各授業担当者が授業内容等を考慮して決定し、授業計画書（シラバス）に明記している。本校における基本的な評価点の算出方法は授業形態により異なり、講義形式の授業科目では定期試験、中間試験、レポート等を合わせて評価点を算出していることが多い。また、実験・実習形式の授業科目ではレポート、課題作成等を合わせて評価点を算出していることが多い。卒業研究では、学科ごとに差異はあるが基本的に口頭発表内容、卒業論文の完成度並びに普段の取組状況を合わせて評価点を算出している。
評価点の算出方法は、授業計画書（シラバス）を用いて学生に周知され、以降は理由を問わず、変更しないこととしている。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

〇客観的な指標の設定
学年成績は授業計画書（シラバス）に基づき、当該年度における各学期の試験の成績、提出物等を総合して 100 点法により評価しており、当該年度に受講した全科目の成績評価結果および各科目の単位数の総和に基づいて重み付け平均点を算出している。

〇成績の分布状況の把握
上記指標の重み付け平均点により、学級、学科ごとに成績分布状況の把握を行っている。また、重み付け平均点の上位から学科、学科ごとに順位付けを行っている。（100 点満点で点数化）

客観的な指標の 算出方法の公表方法	本校ホームページ上にて公表 https://www.okinawa-ct.ac.jp/campus_life/class/syllabus/seisaki_hyouka/

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

【本科】
ディプロマポリシー
本科では、以下の能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

〔修得する能力〕
【全学科共通】
１．理工系の分野に共通して必要とされる基礎的な学力、及び、各専門分野の基礎的な知識と技術を持ち、それらを実践に応用することができる。
２．様々な人々と主体的に協働して課題解決に取り組むことのできるコミュニケーション能力、及び、技術者にふさわしい倫理観に基づき、その専門知識を社会のために役立てることができる。
３．自らの資質と現在の能力を見極め、それらを磨き高める努力を主体的に続けることができる。

「沖縄工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則」
第５章 学年の課程の修了及び卒業の認定
（学年の課程の修了及び卒業の認定）
第１５条 学年の課程の修了及び卒業の認定は，教員会議の議を経て校長がこれを行う。
２　学年の課程の修了及び卒業の認定にあたっては，授業料目及び特別活動（第１学年から第３学年のみ）の履修状況並びに次の各号に掲げる条件をすべて満たしていることを基準とする。ただし，校長が特に認めた海外留学生として派遣されるため年度をまたがって休学する 学生の学年の課程及び卒業の認定にあたっては，休学期間以外の当該年度と前年度の授業日数を合算して年間総授業日数を算出するものとする。
(1)学則別表第１及び別表第２に定める科目を履修していること。
(2)学則に定める当該学年における修得すべき科目の単位を全て修得していること。
(3)出席日数が年間総授業日数の３分の２以上であること。ただし，第４学年及び第５学年において原級留置となった学生のうち,それぞれの学年の原級留置決定年度において修得科目のあった者を除く。
(4)特別活動が「合格」であること。
３　前項各号の条件を満たさない者で特別な理由があると校長が認めた者については、教員会議において審議した上で、校長が総合的に判定する。
４　卒業に必要な修得単位数は，学則別表第３に記した単位数とする。

卒業の認定に関する方針の公表方法	本校ホームページ上にて公表 https://www.okinawa-ct.ac.jp/campus_life/class/rules/ 『学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則』

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	沖縄工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/zaimusyohyoR6.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/zaimusyohyoR6.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
財産目録	
事業報告書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/R6jigyouhoukoku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
監事による監査報告（書）	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/R6jikotennkennhyouka.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画　対象年度：令和８年度　）
公表方法：https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/r7-keikaku.pdf （https://www.kosen-k.go.jp/release/independence）
中長期計画（名称：独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画　対象年度：令和６年度から令和 10 年度）
公表方法：https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/5th-keikaku.pdf （https://www.kosen-k.go.jp/release/independence）

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：本校 web サイトで公開している。 https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/pub_info/reports/

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：本校 web サイトで公開している。
https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/pub_info/insacc/

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　機械システム工学科

教育研究上の目的（公表方法：公表方法：本校ホームページ上にて公表
https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/philosophy/）

（概要）

・ 人材養成上の目的

「モノ」の創造・設計・生産に必要な知識・技術をシステムとして統合した教育研究を行い、地球的視点での「モノづくり」を支える実践力の高い技術者を育成する。

・ 学生に修得させるべき能力（教育目標）

① 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力
② 材料・加工学等の要素技術やＣＡＤ・ＣＡＭ・ＣＡＥ等のコンピュータを使用した生産技術力
③ 各種力学、熱・流体工学等の要素技術や機械製品に関する設計技術力
④ 電気・電子工学、制御・メカトロニクス工学等を用いたシステム化技術力

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本校ホームページ上にて公表
https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/3policy/）

（概要）

ディプロマポリシー

本科では、以下の能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

〔修得する能力〕

【全学科共通】

１．理工系の分野に共通して必要とされる基礎的な学力、及び、各専門分野の基礎的な知識と技術を持ち、それらを実践に応用することができる。
２．様々な人々と主体的に協働して課題解決に取り組むことのできるコミュニケーション能力、及び、技術者にふさわしい倫理観に基づき、その専門知識を社会のために役立てることができる。
３．自らの資質と現在の能力を見極め、それらを磨き高める努力を主体的に続けることができる。

【機械システム工学科】

ディプロマポリシー

機械システム工学科では、以下の能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

〔修得する能力〕

１．機械工学分野の知識を活用し、課題解決に向けて行動できる。
２．他者と協働し、倫理観・責任感を持って課題に取り組むことができる。
３．機械工学分野の技術を活用し、課題解決に向けて行動できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：：本校ホームページ上にて公表
https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/3policy/）

（概要）
カリキュラムポリシー
本科では、ディプロマポリシーに示した能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

【全学科共通】
１．理工系の分野に共通して必要とされる基礎的な学力を身につけ、各専門分野の基礎的な知識と技術を修得、応用する科目を配置する。
２．様々な人々と主体的に協働して課題解決に取り組むことのできるコミュニケーション能力と、技術者にふさわしい倫理観を修得する科目を配置する。
３．継続的に学習していく能力を養う科目を配置する。

これらの科目群に係る単位修得の認定は、各学期の試験の成績、提出物、出席状況及び学習態度等を総合し、以下の区分により評価する。
S（100～90 点）秀　A（89～80 点）優　B（79～70 点）良　C（69～60 点）可　F（59～0 点）不可

カリキュラムポリシー
機械システム工学科では、ディプロマポリシーに示した能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

１．機械システムの知識を修得する、物理と数学を基礎としたいわゆる四力学と、これらを基盤とした基礎専門科目を配置する。
２．課題解決能力を育成する、課題の本質を理解し論理的に解決する能力を育成する卒業研究、他者と協働して課題を解決しようとする能力を育成する科目を配置する。
３．機械システムの技術を修得する、実践的な機械システム工学の実験や実習、設計製図実習、プログラミング演習などの実技科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：　本校ホームページ上にて公表
https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/3policy/）

（概要）
アドミッションポリシー
本科では、本校の教育理念、教育目標、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、次のような人材を求める。

【全学科共通】
１．理数系分野に興味があり、それらの科目において基礎的な学力を有している人
２．責任感と忍耐力を備え、様々な人々との主体的な協働と学びを通じてコミュニケーション能力を高めることができる人
３．規則正しい生活と自発的な学習ができる人

入学者の選抜は、以下の４つの方法で行う。
推薦による選抜
本校への入学意思が固く、志望する学科に対する適性や興味・関心の強い志願者（志望動機が適切である志願者）に対し、門を開くために本選抜を実施する。そのため、調査書による評価と面接（アドミッションポリシーに従う質問）により選抜を行う。

学力検査による選抜
本校への関心のある志願者に対し、本選抜を実施し、調査書と学力検査により選抜を行う。

帰国生徒特別選抜

本校への関心があり、日本国以外での教育を受けた志願者に対し、本選抜を実施し、調査書、学力検査、小論文及び面接により選抜を行う。

編入学者選抜
本校への関心があり、高等学校等を卒業後、技術者としての素養を身につけたいと強く希望する志願者に対し、本選抜を実施し、調査書、学力検査及び面接により選抜を行う。

アドミッションポリシー
機械システム工学科では、本校の教育理念、教育目標、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、次のような人材を求める。

１．機械やモノづくりに興味のある人
２．機械に関する専門知識と技術を修得し、モノづくりによる社会に貢献したい人
３．機械の動く仕組みや構造を理解したい人

取組・改善状況について
中学校における評定が低くても、学力検査で高得点を取ることで入学の機会を与えるため、令和４年度本科学生募集より、学力検査の総得点が上位 30 位については、学力検査の得点のみで合否を判定している。また、推薦による選抜にて不合格となった者が学力による選抜の受験を希望している場合、志望学科を変更可能とした。

学部等名　情報通信システム工学科

教育研究上の目的（公表方法：：本校ホームページ上にて公表
https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/philosophy/）

（概要）

・ 人材養成上の目的

環境と技術の調和と社会的責任を考え、産業界の発展に寄与すべく、電気・電子工学と情報通信工学の基本技術を修得させ、情報通信機器などの設計・開発・運用のできる実践的・創造的技術者を育成する。

・ 学生に修得させるべき能力（教育目標）

① 総合科学分野情報通信技術を社会的視点で捉え、多面的に物事を考え、論理的に思考・説明できる能力

② コンピュータのハードウェアとソフトウェアの基礎知識を備え、通信を含む社会の様々な問題をシステムとして解決できる基本技術力

③ 通信システム設計、通信ネットワーク運用に必要となる通信工学と情報セキュリティなどの基本技術力

④ 情報通信技術の基礎となる電子工学の基礎知識とデジタル及びアナログの集積回路設計の基本技術力

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本校ホームページ上にて公表
https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/3policy/）

（概要）

ディプロマポリシー

本科では、以下の能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

〔修得する能力〕

【全学科共通】

１．理工系の分野に共通して必要とされる基礎的な学力、及び、各専門分野の基礎的な知識と技術を持ち、それらを実践に応用することができる。

２．様々な人々と主体的に協働して課題解決に取り組むことのできるコミュニケーション能力、及び、技術者にふさわしい倫理観に基づき、その専門知識を社会のために役立てることができる。

３．自らの資質と現在の能力を見極め、それらを磨き高める努力を主体的に続けることができる。

【情報通信システム工学科】

ディプロマポリシー

情報通信システム工学科では、以下の能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

〔修得する能力〕

１．情報通信工学の基礎的知識を活用し、それらを応用することができる。

２．論理的思考力と技術者としての倫理観を体得し、課題に対してグローバルな視点から、解決に向けてコミュニケーションを図ることができる。

３．課題に対して主体的かつ計画的に物事を進めることができ、課題解決に導くことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本校ホームページ上にて公表
https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/3policy/）

（概要）
カリキュラムポリシー
本科では、ディプロマポリシーに示した能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

【全学科共通】
１．理工系の分野に共通して必要とされる基礎的な学力を身につけ、各専門分野の基礎的な知識と技術を修得、応用する科目を配置する。
２．様々な人々と主体的に協働して課題解決に取り組むことのできるコミュニケーション能力と、技術者にふさわしい倫理観を修得する科目を配置する。
３．継続的に学習していく能力を養う科目を配置する。

これらの科目群に係る単位修得の認定は、各学期の試験の成績、提出物、出席状況及び学習態度等を総合し、以下の区分により評価する。
S（100～90 点）秀　A（89～80 点）優　B（79～70 点）良　C（69～60 点）可　F（59～0 点）不可

カリキュラムポリシー
情報通信システム工学科では、ディプロマポリシーに示した能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

１．情報通信工学の基礎的な知識を活用し、それらを応用する科目を配置する。
２．論理的思考力や発表と討議の能力を育成する科目として、電気電子回路・情報・通信工学に関する実験・実習・演習科目を配置する。
３．課題に対して自主的かつ計画的に物事を進め、課題解決に導く能力を滋養するために、実験、実習、演習科目を体系的に配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校ホームページ上にて公表
https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/3policy/）

（概要）
アドミッションポリシー
本科では、本校の教育理念、教育目標、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、次のような人材を求める。

【全学科共通】
１．理数系分野に興味があり、それらの科目において基礎的な学力を有している人
２．責任感と忍耐力を備え、様々な人々との主体的な協働と学びを通じてコミュニケーション能力を高めることができる人
３．規則正しい生活と自発的な学習ができる人

入学者の選抜は、以下の４つの方法で行う。
推薦による選抜
本校への入学意思が固く、志望する学科に対する適性や興味・関心の強い志願者（志望動機が適切である志願者）に対し、門を開くために本選抜を実施する。そのため、調査書による評価と面接（アドミッションポリシーに従う質問）により選抜を行う。

学力検査による選抜
本校への関心のある志願者に対し、本選抜を実施し、調査書と学力検査により選抜を行う。

帰国生徒特別選抜
本校への関心があり、日本国以外での教育を受けた志願者に対し、本選抜を実施し、調査

書、学力検査、小論文及び面接により選抜を行う。

編入学者選抜
本校への関心があり、高等学校等を卒業後、技術者としての素養を身につけたいと強く希望する志願者に対し、本選抜を実施し、調査書、学力検査及び面接により選抜を行う。

アドミッションポリシー
情報通信システム工学科では、本校の教育理念、教育目標、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、次のような人材を求める。

１．新しい電子機器やソフトウェアに興味のある人
２．情報や通信の技術によって社会に貢献したい人
３．情報や通信の技術を身につける意欲のある人

取組・改善状況について
中学校における評定が低くても、学力検査で高得点を取ることで入学の機会を与えるため、令和４年度本科学生募集より、学力検査の総得点が上位 30 位については、学力検査の得点のみで合否を判定している。また、推薦による選抜にて不合格となった者が学力による選抜の受験を希望している場合、志望学科を変更可能とした。

学部等名　メディア情報工学科

教育研究上の目的（公表方法：本校ホームページ上にて公表
https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/philosophy/）

（概要）

・ 人材養成上の目的

数学や自然科学の基礎知識とメディア情報工学の専門的基礎知識をもとにして、産業界の発展に寄与し、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成する。

・ 学生に修得させるべき能力（教育目標）

① 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力

② コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの基礎技術を理解し、ネットワーク分野、コンテンツ分野に適用できる能力

③ネットワークとセキュリティの基礎技術を理解し、応用するための基本的な能力

④ 種々の情報を加工、表現する技術の基礎を理解し、表現できる能力

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本校ホームページ上にて公表
https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/3policy/）

（概要）

ディプロマポリシー

本科では、以下の能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

〔修得する能力〕

【全学科共通】

１．理工系の分野に共通して必要とされる基礎的な学力、及び、各専門分野の基礎的な知識と技術を持ち、それらを実践に応用することができる。

２．様々な人々と主体的に協働して課題解決に取り組むことのできるコミュニケーション能力、及び、技術者にふさわしい倫理観に基づき、その専門知識を社会のために役立てることができる。

３．自らの資質と現在の能力を見極め、それらを磨き高める努力を主体的に続けることができる。

【メディア情報工学科】

ディプロマポリシー

メディア情報工学科では、以下の能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

〔修得する能力〕

１．情報工学やコンテンツ制作に関する基礎的知識を修得し、それらを応用することができる。

２．倫理観や課題解決能力、コミュニケーション力を修得しており、情報工学とコンテンツ制作に関する専門知識を社会に役立てることができる。

３．情報工学とコンテンツ制作における課題を解決するために継続的に自己研鑽できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本校ホームページ上にて公表
https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/3policy/）

（概要）
カリキュラムポリシー
本科では、ディプロマポリシーに示した能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

【全学科共通】
１．理工系の分野に共通して必要とされる基礎的な学力を身につけ、各専門分野の基礎的な知識と技術を修得、応用する科目を配置する。
２．様々な人々と主体的に協働して課題解決に取り組むことのできるコミュニケーション能力と、技術者にふさわしい倫理観を修得する科目を配置する。
３．継続的に学習していく能力を養う科目を配置する。

これらの科目群に係る単位修得の認定は、各学期の試験の成績、提出物、出席状況及び学習態度等を総合し、以下の区分により評価する。
S（100～90 点）秀　A（89～80 点）優　B（79～70 点）良　C（69～60 点）可　F（59～0 点）不可

カリキュラムポリシー
メディア情報工学科では、ディプロマポリシーに示した能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

１．ソフトウェアやコンピュータネットワークなどの情報工学やコンテンツ制作に関する科目を配置する。
２．ソフトウェア開発やネットワーク構築、コンテンツ制作を通して、共同で問題解決に取り組む姿勢とコミュニケーション力を修得する科目を配置する。
３．課題に対して自主的かつ計画的に物事を進め、課題解決に導く能力を滋養するために、ソフトウェア開発やネットワーク構築、コンテンツ制作などの実験・実習科目を体系的に配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校ホームページ上にて公表
https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/3policy/）

（概要）
アドミッションポリシー
本科では、本校の教育理念、教育目標、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、次のような人材を求める。

【全学科共通】
１．理数系分野に興味があり、それらの科目において基礎的な学力を有している人
２．責任感と忍耐力を備え、様々な人々との主体的な協働と学びを通じてコミュニケーション能力を高めることができる人
３．規則正しい生活と自発的な学習ができる人

入学者の選抜は、以下の４つの方法で行う。
推薦による選抜
本校への入学意思が固く、志望する学科に対する適性や興味・関心の強い志願者（志望動機が適切である志願者）に対し、門を開くために本選抜を実施する。そのため、調査書による評価と面接（アドミッションポリシーに従う質問）により選抜を行う。

学力検査による選抜
本校への関心のある志願者に対し、本選抜を実施し、調査書と学力検査により選抜を行う。

帰国生徒特別選抜
本校への関心があり、日本国以外での教育を受けた志願者に対し、本選抜を実施し、調査書、学力検査、小論文及び面接により選抜を行う。

編入学者選抜
本校への関心があり、高等学校等を卒業後、技術者としての素養を身につけたいと強く希望する志願者に対し、本選抜を実施し、調査書、学力検査及び面接により選抜を行う。

アドミッションポリシー
メディア情報工学科では、本校の教育理念、教育目標、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、次のような人材を求める。

１．ソフトウェア、コンピュータネットワーク、コンテンツ制作技術に興味のある人
２．ソフトウェア、コンピュータネットワーク、コンテンツ制作の技術によって社会に貢献したい人
３．ソフトウェア、コンピュータネットワーク、コンテンツ制作の技術を自主的、継続的に学べる人

取組・改善状況について
中学校における評定が低くても、学力検査で高得点を取ることで入学の機会を与えるため、令和４年度本科学生募集より、学力検査の総得点が上位 30 位については、学力検査の得点のみで合否を判定している。また、推薦による選抜にて不合格となった者が学力による選抜の受験を希望している場合、志望学科を変更可能とした。

学部等名　生物資源工学科

教育研究上の目的（公表方法：本校ホームページ上にて公表
https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/philosophy/）

（概要）

・ 人材養成上の目的

環境に配慮し、生物資源の活用に必要な生物化学工学、環境科学、微生物学、食品系工学、バイオテクノロジーの基礎能力と専門技術を身につけ、産業界の要請に対応できる実践的・創造的技術者を育成する。

・ 学生に修得させるべき能力（教育目標）

① 生命科学の基礎となる自然・人文科学の基礎知識を活かし論理的に思考できる能力

② 地球環境保全の調査・分析に必要な基礎的技術力

③ 微生物学・食品科学の基礎技術を理解し、産業規模で実践できる技術力

④ 生物資源を利用した食品・化粧品などの開発に必要な基礎的技術力

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本校ホームページ上にて公表
https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/3policy/）

（概要）

ディプロマポリシー

本科では、以下の能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

〔修得する能力〕

【全学科共通】

1．理工系の分野に共通して必要とされる基礎的な学力、及び、各専門分野の基礎的な知識と技術を持ち、それらを実践に応用することができる。

2．様々な人々と主体的に協働して課題解決に取り組むことのできるコミュニケーション能力、及び、技術者にふさわしい倫理観に基づき、その専門知識を社会のために役立てることができる。

3．自らの資質と現在の能力を見極め、それらを磨き高める努力を主体的に続けることができる。

【生物資源工学科】

ディプロマポリシー

生物資源工学科では、以下の能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

〔修得する能力〕

1．バイオテクノロジーの基礎的な知識と技術を身につけ、生物資源を創造的且つ実践的な研究開発につなげることができる。

2．技術者としての倫理観を体得し、お互いの考えを理解・共有するためのコミュニケーション力を備え、互いに協調・協力して解決すべき課題に取り組むことができる。

3．常に新しい情報や専門知識の収集・獲得する姿勢を持ち続け、それらに基づいて考え、仕事に応用・発展させることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本校ホームページ上にて公表
https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/3policy/）

（概要）
カリキュラムポリシー
本科では、ディプロマポリシーに示した能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

【全学科共通】
１．理工系の分野に共通して必要とされる基礎的な学力を身につけ、各専門分野の基礎的な知識と技術を修得、応用する科目を配置する。
２．様々な人々と主体的に協働して課題解決に取り組むことのできるコミュニケーション能力と、技術者にふさわしい倫理観を修得する科目を配置する。
３．継続的に学習していく能力を養う科目を配置する。

これらの科目群に係る単位修得の認定は、各学期の試験の成績、提出物、出席状況及び学習態度等を総合し、以下の区分により評価する。
S（100～90 点）秀　A（89～80 点）優　B（79～70 点）良　C（69～60 点）可　F（59～0 点）不可

カリキュラムポリシー
生物資源工学科では、ディプロマポリシーに示した能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

１．生物化学工学群及び環境・微生物学群、食品化学工学群から構成される生物工学の基礎知識と技術を習得する科目群と、それらを応用する科目群を配置する。
２．生物工学の技術者として倫理観・課題解決能力・コミュニケーション力を育成する全学科共通専門科目及び専門実験・実習科目を配置する。
３．実験・実習を通して継続的に学習する力を養う共通群科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校ホームページ上にて公表
https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/3policy/）

（概要）
アドミッションポリシー
本科では、本校の教育理念、教育目標、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、次のような人材を求める。

【全学科共通】
１．理数系分野に興味があり、それらの科目において基礎的な学力を有している人
２．責任感と忍耐力を備え、様々な人々との主体的な協働と学びを通じてコミュニケーション能力を高めることができる人
３．規則正しい生活と自発的な学習ができる人

入学者の選抜は、以下の４つの方法で行う。
推薦による選抜
本校への入学意思が固く、志望する学科に対する適性や興味・関心の強い志願者（志望動機が適切である志願者）に対し、門を開くために本選抜を実施する。そのため、調査書による評価と面接（アドミッションポリシーに従う質問）により選抜を行う。

学力検査による選抜
本校への関心のある志願者に対し、本選抜を実施し、調査書と学力検査により選抜を行う。

帰国生徒特別選抜
本校への関心があり、日本国以外での教育を受けた志願者に対し、本選抜を実施し、調査

書、学力検査、小論文及び面接により選抜を行う。

編入学者選抜
本校への関心があり、高等学校等を卒業後、技術者としての素養を身につけたいと強く希望する志願者に対し、本選抜を実施し、調査書、学力検査及び面接により選抜を行う。

アドミッションポリシー
生物資源工学科では、本校の教育理念、教育目標、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、次のような人材を求める。

１．バイオテクノロジーに興味のある人
２．生物、化学、環境、食品などに関する知識と技術によって社会に貢献したい人
３．生物資源を様々な角度から理解し、知識と技術を身につける意欲のある人

取組・改善状況について
中学校における評定が低くても、学力検査で高得点を取ることで入学の機会を与えるため、令和４年度本科学生募集より、学力検査の総得点が上位 30 位については、学力検査の得点のみで合否を判定している。また、推薦による選抜にて不合格となった者が学力による選抜の受験を希望している場合、志望学科を変更可能とした。

学部等名　創造システム工学専攻

教育研究上の目的（公表方法：本校ホームページ上にて公表
https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/philosophy/）

（概要）
高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工学に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、豊かな人間性と国際性を持ち、実践性・創造性を兼ね備え複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけ、課題設定・解決能力に優れ柔軟な思考ができる高度開発型の技術者を育成する。

・教育目標
1. 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する
2. 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する
3. 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する
4. 地球的視野と倫理観を備え社会に貢献できる人材を育成する

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本校ホームページ上にて公表
https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/3policy/）

（概要）
【専攻科】
ディプロマポリシー
専攻科（創造システム工学専攻）では、以下に掲げるような能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

〔修得する能力〕
１．深い専門知識と幅広い関連分野の知識を持ち、これらを活用することができる。
２．倫理観を持ち、他者と協働することができ、倫理的に物事を考え、表現することができる。
３．グローバルな視点で、多面的に物事を捉えることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本校ホームページ上にて公表
https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/3policy/）

（概要）
カリキュラムポリシー
専攻科（創造システム工学専攻）では、ディプロマポリシーに掲げた能力の育成を目的に、以下のカリキュラムを編成する。

１．専門科目の応用力、知識を融合・複合する力を身につける科目を配置する。
２．他者と協働できるコミュニケーション能力を身につける科目を配置する。
３．グローバルな視点で物事を見る力を身につける科目を配置する。

これらの科目群に係る単位修得の認定は、各学期の試験の成績、提出物、出席状況及び学習態度等を総合し、以下の区分により評価する。
S（100～90点）秀　A（89～80点）優　B（79～70点）良　C（69～60点）可　F（59～0点）不可

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校ホームページ上にて公表
https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/3policy/）

（概要）
アドミッションポリシー
専攻科（創造システム工学専攻）では、以下に掲げるような人材を求める。

１．専門分野に関連する基礎知識、基礎技術を身につけ、複合的視野をもち実践的応用能力を身につけることに意欲を持つ人
２．基礎的なコミュニケーション能力、倫理観を身につけている人
３．技術者として地域社会、国際社会の発展に寄与することに意欲を持つ人

入学者の選抜は、以下の３つの方法で行う。
推薦による選抜
本校への入学意思が固く、志望するコースに対する適性や興味・関心の強い志願者（志望動機が適切である志願者）に対し、門を開くために本選抜を実施する。そのため、提出書類に基づいて全ての要素を総合的に評価して選抜を行う。

学力検査による選抜
本校への関心のある志願者に対し、本選抜を実施し、学力検査により選抜を行う。

社会人特別選抜
本校で行われている研究・教育活動に興味がある志願者に対し、社会人の経験を活かし、専攻科での見聞を培うため、本選抜を実施する。そのため、面接（アドミッションポリシーに従う質問）及び専門分野における口頭試問により選抜を行う。

② 教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本校ホームページ上にて公表
https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/pub_info/educational/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	校長・副校長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
―	1人	―					1人
機械システム工学科	1人	5人	3人	1人	0人	0人	10人
情報通信システム工学科	2人	3人	3人	0人	0人	0人	8人
メディア情報工学科	2人	2人	2人	1人	1人	0人	8人
生物資源工学科	1人	4人	1人	1人	1人	0人	8人
基盤教育科（一般科目担当）	0人	4人	8人	2人	1人	0人	15人
創造システム工学専攻	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
人	11人	11人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：https://research.kosen-k.go.jp/researcher-list?page=1&limit=30&districtId=08&affiliationId=6732000000

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

授業改善アンケートを実施し、結果を担当教員へ共有し、アンケート結果に対する所見を提出させ、学生及び教職員に公開している。また、アンケート結果は本校 web サイトで公表している。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
機械システム工学科	40人	40人	100%	200人	213人	106.5%	若干名	1人
情報通信システム工学科	40人	41人	102.5%	200人	213人	106.5%	若干名	1人
メディア情報工学科	40人	45人	112.5%	200人	212人	106%	若干名	1人
生物資源工学科	40人	42人	105%	200人	202人	101%	若干名	1人
合計	160人	168人	105%	800人	840人	105%	若干名	4人
創造システム工学専攻	24人	24人	100%	48人	52人	108.3%	0人	0人
合計	24人	24人	100%	48人	52人	108.3%	0人	0人

（備考）

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
機械システム工学科	30 人 （100%）	7 人 （ 23.3%）	18 人 （ 60.0%）	5 人 （ 16.7%）
情報通信システム工学科	41 人 （100%）	11 人 （ 26.8%）	22 人 （ 53.7%）	8 人 （ 19.5%）
メディア情報工学科	48 人 （100%）	7 人 （ 14.6%）	38 人 （ 79.2%）	3 人 （ 6.2%）
生物資源工学科	34 人 （100%）	17 人 （ 50.0%）	16 人 （ 47.1%）	1 人 （ 2.9%）
創造システム工学専攻	27 人 （100%）	5 人 （ 18.5%）	16 人 （ 59.3%）	6 人 （ 22.2%）
合計	180 人 （100%）	47 人 （ 26.1%）	110 人 （ 61.1%）	23 人 （ 12.8%）

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

c.修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)
	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)
合計	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)

（備考）

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
授業計画書（シラバス）は、授業担当者が前年度末までに作成または内容更新を行い、各授業の到達目標を明記するとともに、ルーブリックによる各項目の到達レベルを詳細に記入している。併せて、授業内容や授業の進め方を記載し、他の科目との関連等を記載することで学生が授業概要を事前に把握し、科目間の関連を認識できるようにしている。
また、授業計画については、週ごとの授業内容・方法を記載するとともに、週ごとの到達目標を明記することで学生の自学自習を促し、学生自身による到達度の確認を実施できるようにしており、評価の割合についても、試験やレポート等の項目ごとに示している。
作成した授業計画書（シラバス）はWeb上で公表し、学生に周知している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
各授業の単位は、授業における定期試験、中間試験、小テスト、レポート等の成績を合わせて算出された学年末の成績である評価点が100点満点で60点以上である場合にその修得が認定されることになっている。
授業における評価点の算出方法は、各授業担当者が授業内容等を考慮して決定し、授業計画書（シラバス）に明記している。本校における基本的な評価点の算出方法は授業形態により異なり、講義形式の授業科目では定期試験、中間試験、レポート等を合わせて評価点を算出していることが多い。また、実験・実習形式の授業科目ではレポート、課題作成等を合わせて評価点を算出していることが多い。卒業研究では、学科ごとに差異はあるが基本的に口頭発表内容、卒業論文の完成度並びに普段の取組状況を合わせて評価点を算出している。
評価点の算出方法は、授業計画書（シラバス）を用いて学生に周知され、以降は理由を問わず、変更しないこととしている。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
	機械システム工学科	167単位	有・無	単位
	情報通信システム工学科	167単位	有・無	単位
	メディア情報工学科	167単位	有・無	単位
	生物資源工学科	167単位	有・無	単位

	創造システム工学専攻	62 単位		
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：「2025 学校要覧」36、37、39、51、52 ページで公開。
https://www.okinawa-ct.ac.jp/userfiles/files/autoupload/2025/07/1753434284.pdf

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	機械システム工学科 情報通信システム工学科 メディア情報工学科 生物資源工学科	234,600 円	84,600 円	208,770 円～	（その他内訳） ノート PC 代　150,000 円 教科書・教材費　約 58,000 円 日本スポーツ振興センター共済掛金　770 円 上記の他に入寮する場合は学生寮関係費が必要となります。
	創造システム工学専攻	234,600 円	84,600 円	770 円～	（その他内訳） 日本スポーツ振興センター共済掛金　770 円 上記の他に入寮する場合は学生寮関係費が必要となります。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 経済的な理由により修学が困難な学生に対し、本人の申請により授業料免除制度や奨学金制度の案内を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 学生のキャリア形成及び進学・就職活動を支援するため、キャリア教育センターを設置している。進路決定のための情報提供や支援のみならず、学生が自己分析・自己理解を深め、インターンシップなどを通して社会やさまざまな職業を理解していくことで、「自分の進路を自分で決定できる能力」を養う教育を行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 学生相談・支援室を設置し、臨床心理士の資格を持つカウンセラーが授業期間中の平日に相談員として相談に応じているほか、学生寮においても週５日相談員を配置している。また、令和３年度より週２日ソーシャルワーカーが勤務しており、連携した支援体制づくりを行っている。相談の結果、学生が自分の問題を自分で解決し学生生活を改善していくことができるよう、学内外の連携を強化し必要な支援の調整にあたっている。 昨今のニーズに対応し、オンラインでの相談も可能となっている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本校ホームページ上にて公表 https://www.okinawa-ct.ac.jp/about/overview/pub_info/educational/

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とする。